

子ども健康と環境に関する全国調査(エコチル調査)

論文概要の和文様式

雑誌における論文タイトル:

Association between gestational weight gain and risk of overweight at 3 years old: the Japan Environment and Children's Study.

和文タイトル:

妊娠中の母親の体重増加量と3歳時点の子どもの肥満との関連

ユニットセンター(UC)等名: 大阪 UC

サブユニットセンター(SUC)名:

発表雑誌名: Pediatric Obesity

年: 2022 DOI: 10.1111/ijpo.12978

筆頭著者名: 谷川果菜美

所属 UC 名: 大阪 UC

目的:

本研究では、日本及び米国での妊娠中の体重増加量の基準を用いて、妊娠中の母親の体重増加量と3歳時点の子どもの肥満との関連を検討することを目的とした。

方法:

エコチル調査に登録された103,060妊娠のうち、単胎生産児64,336人を対象とした。日本及び米国での妊娠中の母親の体重増加量の基準を用い、妊娠中の母親の体重増加量を【不十分/十分/過剰】の3群に分類した。母親の年齢及び共変量を調整した上で、妊娠中の母親の体重増加量の区分別に3歳時点の子どもの肥満に関するリスク比及び95%信頼区間を算出した。

結果:

3歳時点の子どもの肥満は、妊娠中の母親の体重増加量と正の関連を示した。日本での体重増加量の基準では、十分な体重増加量の群と比較した3歳時点での子どもの肥満に関するリスク比(95%信頼区間)は、不十分な体重増加量の群では0.83(0.78-0.88)、過剰な体重増加量の群では1.20(1.12-1.28)であった。同様に、米国での体重増加量の基準では、不十分な体重増加量の群では0.84(0.79-0.89)、過剰な体重増加量の群では1.27(1.16-1.39)であった。

考察(研究の限界を含める):

本研究の強みは、大規模出生コホート調査のデータを用い、妊娠中の母親の体重増加量を細部に渡って区分し、なおかつ多くの交絡因子を考慮して、3歳時点での子どもの肥満との関連について検討した点である。本研究の限界として、自記式質問票にて保護者が申告した3歳時点での子どもの身長及び体重の情報を用いたことにより、子どもの肥満について誤分類が発生した可能性が考えられる。

結論:

3歳時点の子どもの肥満は、妊娠中の母親の体重増加量の増加と共に増加した。日本及び米国での妊娠中の母親の体重増加量の基準を用いた場合、3歳時点の子どもの肥満は、十分な体重増加量の群と比較して、過剰な体重増加量の群では20%~27%増加し、不十分な体重増加量の群では16%~17%減少した。